

# 竹炭入り「黒酒」奉納

射水・きららかネットなど

## 試作重ね半年かけ開発

竹林整備や竹炭作りを通して里山の保全活動に取り組んでいる射水市の「きららかネットワーク」（藤岡正明代表）と富山市婦中町下井沢の吉乃友酒造（吉田満社長）は、竹炭リキュール「黒酒」を開発し、24日、射水市串田（大門）の榎田神社（宮川真清宮司）に奉納した。

きららかネットワークは射水市黒河や青井谷（小杉）の竹林で竹を伐採し、里山が荒れないうちのうちに、竹が用いられたと言われるが、で作った炭は体内の不要物質を体外に排出する効果があるとい、これまで竹炭コーヒ

土壌に竹炭を混ぜた田でコシヒカリを栽培。それを使って酒を造り、竹炭のパウダーをブレンドした。

吉乃友酒造の杜氏で同ネットワーク理事の廣島達彦さんは「竹炭を入れる量や竹炭の細かさなど、何種類も試作し、半年近くかけて造った」と話す。

榎田神社には藤岡代表と廣島さん、県立大地域連携センターコーディネーターで同ネットワーク理事の山田恵宣さんの3人が訪れた。宮川宮司が祝詞を奏上し、3人が玉串をささげた。廣島さんは「家庭の神棚などにお供えしてほしい」と話していた。

「黒酒」は300ミリリットル800円（税別）。25日に発売される。問い合わせは吉乃友酒造、電話076（466）2308。

黒酒を奉納した右から藤岡代表、廣島さん、山田さん

